

平成27年度厚生労働科学研究費補助金（障害者対策総合事業 身体・知的障害分野）難病のある人の福祉サービス活用による就労支援についての研究「難病のある人の福祉サービス活用による就労支援シンポジウム」

## 医療ソーシャルワーカーにおける 難病患者の就労支援

2016年3月21日

堀越由紀子（東海大学健康科学部社会福祉学科）  
Yukiko-hrks@tokai-u.jp

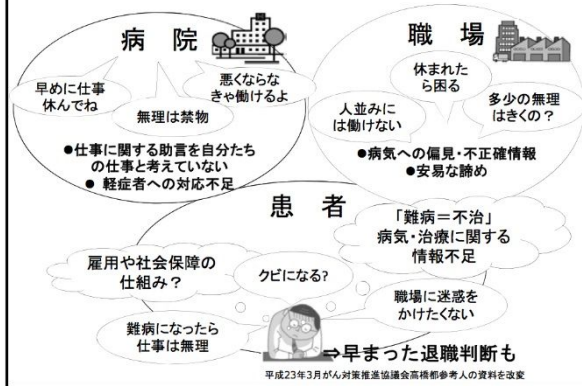
## 保健・医療・福祉・労働等の多分野を 対象とする研修プログラムの必要性

- 難病就労支援 = 治療と仕事の両立支援
- 難病患者では、職業準備、就職活動、職場適応、就業継続など、全ての局面で、医療・生活・就労の複合的課題への対応が必要
- 現状では就労ニーズの高い軽症者への専門的支援はなく、患者は孤軍奮闘・試行錯誤の状態



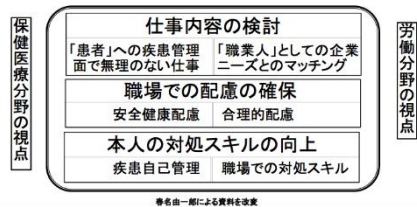
医療機関、難病相談支援センター、労働専門職の連携体制による患者と職場への支援が必要！  
→病院側のスタッフとしてMSWへの期待あり  
→MSWに対する啓発的な研修の必要性

## 難病：就労継続の障壁となっていること

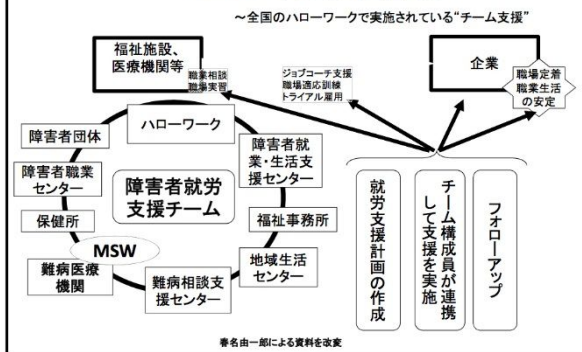


## 就労支援における「餅は餅屋」の連携による 医療・生活・就労支援の相乗効果の期待

- 無理なく能力を発揮できる職業生活による社会参加
- 社会的関係や生きがいの生活・人生の質の向上
- 無理のない仕事や職場配慮による治療効果の向上
- 就労による経済的自立と生活の安定



## 地域就労支援ネットワークへの MSWの参加が必要



## MSWの状況

全国の特定疾患 = 難病の指定医療機関にはMSWがいるが…

- 患者・家族から経済問題や社会保障制度活用について頻繁に相談を受けているのに、就労との関係で捉えていない。
- 主治医（キーパーソン）と連携しているのに就労支援の観点からのフィードバックをしていない。
- 外来ソーシャルワークの実践が手薄であるため、働いている患者への対応をしていない。
- 主治医等が患者の就労上の課題に気づかない、話題にしない、実際のでない対応をする…などの状況が看過されている。



- 患者・家族との相談の中で「就労」をテーマにしよう
- 連携を通して主治医等に「就労」を意識してもらう働きかけをしよう

## さらに...

がん診療連携拠点病院は、ほぼ難病医療指定医療機関である

- がん対策における就労支援
  - がん診療連携拠点病院における相談支援センター体制
  - 社労士やハローワークとの連携
  - 病院側のスタッフとしてMSWへの期待あり
- 回復リハ、精神科領域における就労支援
  - MSW実践としては経験の蓄積あり
  - 地域移行の促進と就労問題のリンク
- 社会福祉プロパー領域での課題
  - 「福祉から雇用へ」推進5か年計画（平成19年）
  - 生活困窮者支援事業（平成26年から本格実施）
  - 就業経験が少ない若者への支援
  - 医療との関連あり、MSWの対応が求められる

## 研究班におけるMSW研修のねらい

- 難病患者に対するMSWの日常的な相談支援業務において下記の3要素を促し、医療機関における就労支援に貢献する

- 就労支援を意識化すること
- 主治医等の院内関係者と就労支援の必要性を共有すること
- 加えて、職場や労働機関等との連携の重要性を認識すること

## 研究プラン

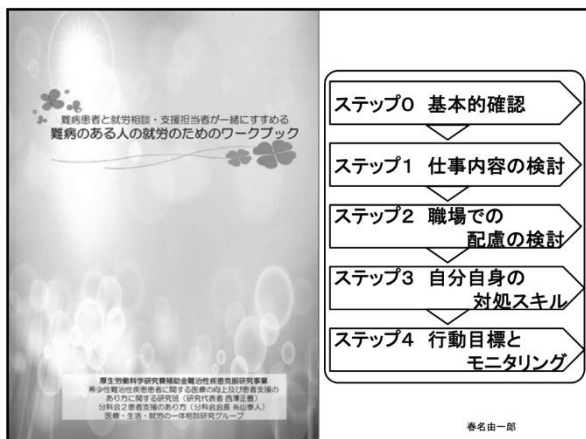
- 「MSWが行う難病患者の就労支援」にかかわる基本的姿勢、知識、スキルを特定する  
(医療・生活・就労の一体相談研究グループ作成のワークブック活用)
- 受講した現任MSWに対して研修内容が浸透し、定着が水平展開するためのカリキュラム内容を探索する
- 学習内容の転移率、臨界点、定着までの時間を勘案して研修効果について評価する

参考：カークパトリックの4段階の枠組み

- 反応レベル (reaction) = 研修内容に興味深いものであったか
- 学習レベル (learning) = 知識やスキル等が理解されたか
- 行動レベル (behavior) = 学習内容を実行したか
- 結果レベル (results) = プロセスパフォーマンスが変わったか

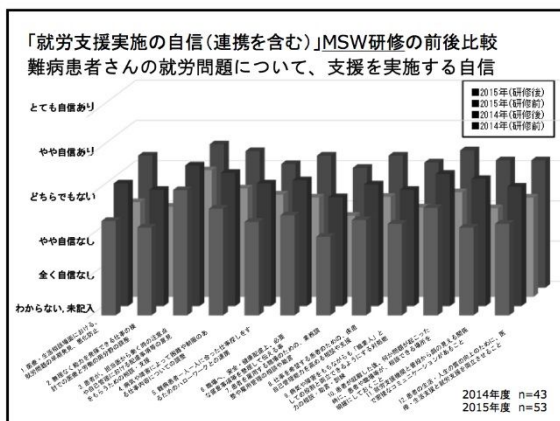
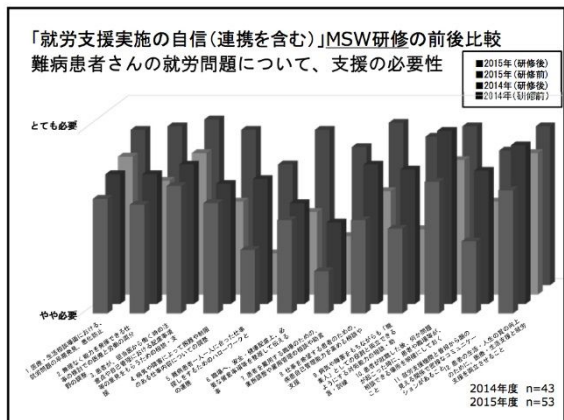
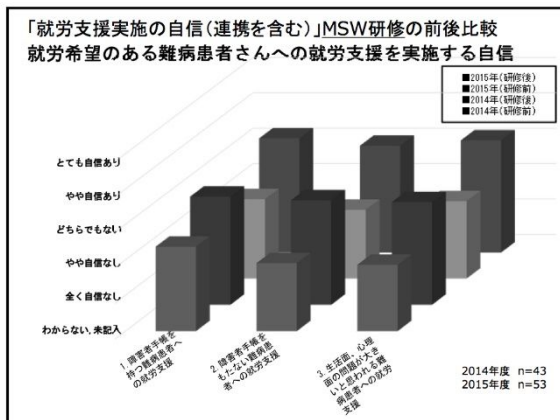
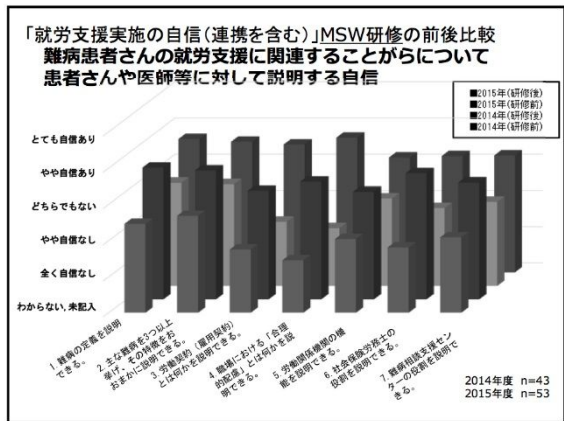
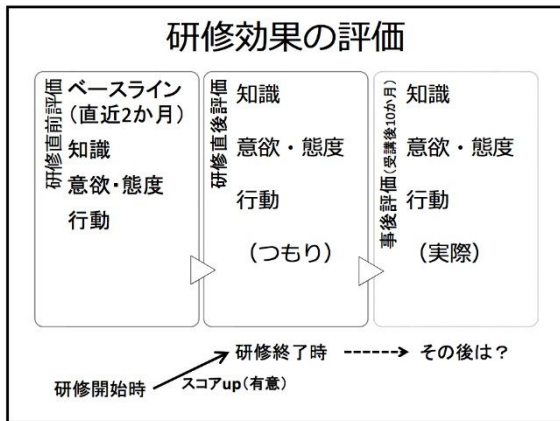
## MSW研修の実施

- (公社)日本医療社会福祉協会が主催するスキルアップ研修「ソーシャルワークにおける就労支援」の機会を借りて、難病患者の就労支援にかかわるMSWの基本的姿勢、知識、スキルに関するパイロット研修を実施。
- 参加者 2014年度（東京）43名/2015年度（神戸）53名
- 研究班メンバー
  - 春名 由一郎 (独法)高齢・障害・求職者雇用支援機構 障害者職業総合センター
  - 伊藤 美千代 東京保健医療大学
  - 堀越由紀子
- 研修設計・実施協力
  - 井上 健朗 (高知県立大学)
  - 松本 葉子 (田園調布学園大学)
  - 林 真紀 (やわたメディカルセンター)



## 研修内容（6時間）

- 動機づけ：就労支援が重要な理由とMSWの任務
- 知識（患者理解と多職種連携に必要な水準）
  - ①難病患者の就労に関する基礎的データ
  - ②難病の医学知識、就労支援視点、方法
- 知識（患者理解と多職種連携に必要な水準）
  - ③労働制度＝法規、機関、専門職
- 体験・知識  
事例を用いた具体的な相談支援の展開方法演習



### 研修結果と今後の課題

**結果**

- MSW役割、難病就労相談にかかわる諸知識、患者さんのニーズ等について、知識の理解ならびに実践意欲(自信)レベルでスコアが上昇し、研修効果が確認された。
- アフター調査は未了だが...
  - 理解ならびに実践意欲レベルは維持されている傾向。
  - 就労支援の実際の実施数は伸びていない。
  - 医療機関内、地域内におけるシステム開発につながっていない可能性が懸念される。患者ごとの支援を、担当者と主治医や担当リハ職らと協力して行うのみで診療・MSW・看護・リハといった部門間の連携によるシステム構築になっていない。

## 研修結果と今後の課題

### 課題

- 医療機関の実情に合わせた就労支援院内システムの開発
  - MSWの意識
  - 病院からのMSWに対する役割期待
  - MSWの主要業務・業務優先順位
  - 外部資源状況（難病支援センターの配置状況等）
- 就労支援関係機関や職種との普段からの連携の推進
  - 雇用側との連携
  - ハローワークや就労支援関係職種との連携
  - 産業医・産業保健関係職種との連携
- これらを加味した効果的な研修、マニュアル等の整備
  - 多職種合同連携研修
  - 地域性を意識した研修参加者リクルート
- がん、難病等を網羅したMSWにおける就労支援の実施